

学校だより

津久戸

令和5年3月1日

3月号

新宿区立津久戸小学校

希望をもつこと

校長 牧田 健一

早いもので今年度も、いよいよ残すところ17日（登校日）となりました。児童は心も体も確実に成長し、進級・進学に向けての力もつけております。ここまで大きな事故やけがもなく、過ごすことができたのも保護者の皆様、地域の皆様のおかげと感謝しております。ありがとうございました。また先月の展覧会には多くの皆様にご来校いただきました。重ね重ね御礼申し上げます。

この3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な制限を受けてきました。児童、保護者の皆様、地域の方々には多大なるご心配をおかけしてきたことをお詫びしなければなりません。申し訳ありませんでした。ただ、今年度はできること、できそうなことは全て実施することができたことに胸をなでおろしています。

度重なる中止や変更が続き、楽しみにしている行事が中止になり、綿密に計画を立てていた教員も肩を落とすということが続きました。ややもすると、「どうせできない」という気持ちになり、「もう一回計画を立て直そう」という、一歩踏み出すこと、「きっと次はできる」という希望をもつことをあきらめてしまうようなことが続きました。希望をもつことは、希望を失うリスクも負うことになるのですから、そういう気持ちになるのも無理はないと思います。勇気を持たなければ希望はもてないのです。しかし、津久戸小学校の児童や保護者、地域の皆様は、希望を捨てず待ってくれました。教職員は、心折れそうな状況でも計画を何度も立て直してくれました。「またできないかも」というリスクを負う覚悟で、希望をもってくれたのです。児童と皆様が勇気を出してくれたおかげです。児童、保護者・地域の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

今後とも、津久戸小学校の児童が勇気をもって、希望を大切に力強く、よりよい成長を目指していきたいと思っています。

話は変わりますが、最後に3月11日で東日本大震災から12年がたちます。けして忘れてはならない大きな災害でした。保護者・地域の皆様もあの地震を忘れず、被災した方々の冥福を祈るとともに災害に対する備えを怠らないようにしてください。

研究の成果

「校内研究」は、子どもたちによりよい学習の機会を提供するために、私たち教員が授業改善に向け取り組んでいくことを言います。津久戸小学校では「心と体をつなぐ健康教育」を主題に、体育・保健・食育を研究教科・領域に指定して、1年目の研究を行ってきました。

昨年度までの生活科・総合的な学習の時間を中心に取り組んできた、カリキュラム・マネジメントの研究をベースにしています。学習指導要領に示されている、育成すべき3つの資質・能力のうち「学びに向かう力・人間性等」を子ども達に身に付けさせるべく、研究を進めました。

体育の授業を通して、主体的に学習に取り組む態度や自己の感情や行動を統制する能力を育むことができました。また、保健や食育は、日頃の教育活動の中でも、取り組んでいます。加えて、基本的な生活習慣確立のためには、ご家庭の協力が不可欠です。今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

給食室より

給食時間が終わりしばらくすると、ある場所で「ごちそうさまでした！」と元気な声が聞こえてきます。教室内で全員そろって「ごちそうさま」の挨拶をしますが、その後にも聞こえてくる挨拶。なぜでしょう。

給食を終えると、担当児童が食缶や食器をのせたワゴンをリフト前まで運びます。本校は廊下が狭く、ワゴンを運ぶときに注意が必要です。担任と共に「ワゴンが通りまーす」と声をかけながら運ぶクラスも見られます。そして、たどり着いたリフト前で全員が手を合わせ、挨拶をしているのです。

「いただきます」には、生産者や食事を作ってくれた人への感謝と食材の命をいただくことへの感謝、2つの意味があると言われます。「ごちそうさま」には、大変な思いをして準備をしてくれた人への感謝の気持ちを表していると言われています。「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶には、日本人の考え方や食文化が色濃く反映されていると感じます。

おいしい給食を食べて身体に栄養を取り入れるのと同じように、こうした挨拶をすることを心の栄養として、良い給食時間を過ごしてほしいと思います。

【学年の窓から・・・6年生】

今年度は、社会科見学や運動会、阿波踊り、初めての宿泊行事「伊那移動教室」、百人一首大会、展覧会など多くの行事を実施することができました。子どもたちと出会ってから、1年という短い期間でしたが、それぞれの行事で一生懸命にがんばる姿や友達のために行動する姿に子どもたちの持ち前のパワーを感じることができました。このパワーを中学校でも発揮してもらえたらと思います。この学校便りが読まれる頃には、6年生の小学校学校生活は残り僅か（約17日）になっていると思います。6年間、保護者の方を始め、多くの先生方、地域の方々に大切に支えられながら育った子どもたちは中学校に羽ばたきます。子どもたち一人一人が胸を張って卒業できるように寄り添いながら、共に歩んでいきたいと思います。

先日、プログラミング学習を行いました。めあては、思い通りに車を動かすためのプログラムを考えることです。まず、真っすぐ走る、カーブを感知して曲がる、枠の中に駐車をするなど、基本的な動きのプログラムを学びました。その後、子供たちは基本のプログラムを生かして試行錯誤！「障害物を感知して避け、暗い所に入ると自動的にライトをつけて走り続ける」という実用的なプログラムを組む子も出てきました。子どもたちの柔軟な発想に驚くばかりです。今回は、コンピューターを使ったプログラミング学習でした。しかし、プログラミングとはコンピューターを使った学習のみを指すものではありません。大切なのは、「計画する・やってみる・振り返る・修正する」というサイクルを自分で回せるようになることです。ここで学んだプログラミング的思考が、今後の子供たちの生活に生かされることを願っています。

3月の生活目標

『人の気持ちを大切にしよう』

- ・感謝の気持ちをあらわそう。
- ・みんなでなかよく遊ぼう。
- ・心をこめてあいさつをしよう。
- ・一年間のまとめをしよう。



卒業・進級の時期になりました。生活面、学習面を振り返り、できるようになったこと、もっと頑張りたいことを意識して、4月からの新しい年度につなげましょう。
(生活指導部)

